

冬の楽園



(上)秋川沿いの草原の様子。カモ類や小鳥たちのすみかとなります。
(下)クズの実を食べるシメの様子。クズは、人間の感覚ではあまりよろしくない存在ですが、多くの冬鳥はこの植物を利用します。



さまざまな植物、さまざまな鳥類

(上)ヤマガラやジョウビタキはカラスザンショウの実を採食します。他に、メジロ、コゲラなどにとっては昆虫のいない季節に必要なとする植物です。

(右上)ムクノキの実を食べるイカル。秋～冬の人気な餌です。

(右下)サクラが咲く前に、ウソやアカウソは群れでサクラの木を巡り、冬芽を食べます。ウソの仲間が多い年には、その影響で自然の中のサクラ類が満開になれないような状況です。これも自然の流れです。写真では、ウソはエドヒガンザクラの冬芽を食べています。[パブロ]

河川沿いの平地では、水の流れの音以外に何もなさそうですが、実は、野鳥にとっては冬の楽園となる場所です。大きな河川周辺に広がる草原や芦原、自然林では野鳥が必要とする実が豊富で、多くの冬鳥はこのような環境を好みます。

木の実などと野鳥との関係は興味深く、市内でその繋がりを詳しく調べようと思いました。森づくりを行うときには、様々な生物が調和してくらしていけることを最優先にすべきだと考えています。よって、このような繋がりは欠かせないものですが、どのような環境でも人間の生活が関わってくるため、この繋がりが難しくなります。

「森には、針葉樹林が良いのか、広葉樹林が良いのか」という話をよく聞きますが、草地や草原などの開けた環境も自然の中ではとても重要なのです。私は、どのような自然環境が良いのかと聞かれれば、様々な環境が存在する自然が多様性に繋がることから、このような自然が望ましいと思います。もちろん、環境の連続性なども重要です。この4年間で見てきたあきる野の自然は、様々な環境が存在するエリアであるので、比較的多様性の高い自然に恵まれています。



12月のコレンジャーは山歩き



出発前 地図の読み方を知る



山には神さまがいることを知った

3期コレンジャーの活動では初めての長い山歩きとなりました。出発の前に、1日を共にする「地図」をみんなで学びました。等高線、木の種類、神社やお寺の記号、電線など。地図にはたくさんの情報がつまっていることを知りました。地図を読むことができれば山歩きは自分ごととなり世界が広がります。

今回の山歩きの目的は、地図を知ることと森林レンジャーの仕事を体験することです。それから、私たちレンジャーも森を歩けば必ずと言っていいほど毎回新しい発見があります。コレンジャーには森歩きの中で、レンジャーから自然のことを教わるだけではなく、自分自身で何かを見つける目と心を育ててほしい…これが一番重要かもしれません。そんなことを1人考えながら、さあ皆で出発です！

途中、現在地を地図から読み解きながら出会う発見をみんなで共有し進みました。発見の中でも一番のナゾは、道上にけものしっぽが落ちていたこと…だれ？ どうして？ しっぽをかこんで、レンジャーが話し合いました。しっぽには柔らかくて暖かそうな冬毛が見られ、長さは約20センチ。周りにはその他の痕跡はありません。テンのしっぽだと考えられますが、なぜしっぽだけ残されたのか？ 仲間同士のケンカか、クマタカなどの捕食者におそわれたのか。結局ナゾはナゾのまま…

森には人間が想像するしかない不思議がたくさんあります。答えを知ることよりも今のコレンジャーに大切なのは「森に暮らす生き物の気持ちになって考えてみる」ということだと思います。

コレンジャーにとって、レンジャーの“しっぽ会議”がいっきかけになったのではないのでしょうか？



テンのしっぽが…

森林レンジャー主催“地域との協働ツアー”終了しました！

レンジャーのこれまでの“地域と協働”活動で関わりのあった方と、自然と人が生きるあきる野を知るツアーを2つ実施し、大盛況のもと終了することができました。

11月10日 鈴木さんと歩く～謎のグミ御前への道～は、健脚者向けの自然と歴史を知る登山ツアーでした。地域の歴史を独学で研究しているサポートレンジャーの鈴木さんが山中の石碑にまつわる謎をひも解き、レンジャーが自然を解説し、その時代の森と人や森に暮らすけもの生活を想像しながらの1日となりました。参加者の皆さんからは、地域に住んでいても知ることがなかった歴史や自然の一部を知ることができ、もっと知りたいと思った！といった感想をいただきました。

11月17日 森と人とけものこと～自然を昔に戻す会をたずねて～は、森の現状を知る山歩きと炭焼き作業体験ツアーでした。レンジャーが調査から見てきた森や野生動物のことを伝え、次世代へ自然を残すために様々な取り組み（竹炭や竹酢液の製造・販売、広葉樹の育苗・植樹、森の手入れ、川の水質調査など）を地道に続ける自然を昔に戻す会の皆さんが、あきる野に生きる人の姿を伝えてくれました。参加者からは、森の現状や森に暮らす野生動物の生活を知り、地域で活動している戻す会を知ることができた、そして、知るだけではなく実際に自然や地域の為に自分ができることをしたい、といった感想をいただきました。

この2つのツアーは、地域の協力があつたからこそ“体験から具体的な行動へ”つながるものとなりました。

あきる野にはたくさんの宝があります。豊かな自然、地域に残る文化・歴史など。そして、地域で活動続ける人も宝です。この宝を多くの人に知ってもらい受け継がれてほしい、その宝の皆さんには、皆さんが生き生きと続けている地道な活動こそ素晴らしいということを知ってもらいたい…地域の皆さんに教えて頂いたことを活かしながら、人と自然が生きる活動を今後も続けていきます！

(加瀬澤)



11月10日 鈴木さんと歩く
～謎のグミ御前への道～ 参加者12名



11月17日 森と人とけものこと
～自然を昔に戻す会をたずねて～ 参加者18名